

# LIBRARY NEWS

CHIKUSHI JOGAKUEN UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE LIBRARY

## 「読書感想文コンクール」審査結果について

図書館長 木村 政伸

第5回(2009年度)「読書感想文コンクール」の審査結果を発表します。学生への読書の奨励と図書館利用の推進を目的に、2005年から読書感想文コンクールを実施して、学生諸君に応募を呼びかけてきました。今回は合計で9編の応募がありました。昨年に比べて大幅に減少したことは残念です。しかし1年生から多数の応募があったことは、今後へつながるものとして喜びたいと思います。

応募作品を大学・短期大学部の教員で組織する図書委員会メンバーで審査しました。審査は公正を期するために氏名をふせておこないました。その結果以下のように入選者が決定しました。優秀者は全学礼拝の場を借りて表彰すると共に、「最優秀賞」受賞の今村さんの感想文は、この裏面に掲載します。また、全入賞作品を図書館のホームページ上に掲載しますので、自由にアクセスして読んでください。

**最優秀賞** 今村 涼子 (日本語・日本文学科4年)

**優秀賞** 田中 亜矢巳 (発達臨床心理学科3年)

**佳作** 近藤 直生 (英語学科4年)

講評：受賞対象の作品が取り上げた著作は、それぞれ異なるジャンルのもので、今村さんはフィクション、田中さんはノン・フィクション、近藤さんはエッセイとでも分類できるかもしれませんが。それぞれに重厚なテーマを追っていることには違いがなく、それらの重さが感想文にもよく現れていると思います。

今村さんの作品は、向田邦子作品をよく読みこみ、複雑な人間関係から垣間見える人間のありさま・生きざまを的確に把握していることがうかがわれます。「蛇蝎のごとく」というタイトルから浮き彫りにされた本書のテーマによく迫れていると感じます。文章も、感想文というより文芸批評と言ったほうが適切かと思うような文章です。

田中さんの作品は、心理学を志す学生にふさわしいテーマを扱ったものです。素直に表現された文体の中に、多重人格者の生きざまに触れて覚醒していく若い学生の成長する姿がかいま見られます。本を読むということは、新しい世界との出会いの場になりうるということを実感させてくれた作品となっています。

近藤さんの作品は、いわば道に迷った若者への青春の案内を取り上げたものでしょうか。様々なことに会い、考え、思い悩む時期は誰しもあることですが、そうした時期の若者に対して、多様な先達が自らの若かりし頃を語ることによって道標となった本を、素直なしかし時にユニークな表現で語っていたのが印象的でした。

他にも森絵都『風に舞い上がるビニールシート』のような近年の作品を扱った人がいる一方、遠藤周作『白い人・黄色い人』のような古典と呼べるような作品を取り上げた人もいました。図書館では多種多様な本をそろえています。本をよむ事で、知らない世界に触れ、人生をもっと広げてみましょう。来年も多くの応募を期待します。

## ナレッジ(Knowledge)の海へ…

— 図書館の契約データベース紹介その6 —

### 1 「言海」から「大言海」へ

キンモクセイの香りがどこからともなく風に乗ってやって来る季節です。



「キンモクセイ」ってどういう字を書くの?という時、皆さんはどうしますか?

近くにパソコンがあればキーボードで「きんもくせい」と叩いて変換、という人もあるかも知れません。本棚の国語辞典を手にとって調べる人も多いでしょう。

英語の意味がわからないときは英和辞典、漢字の読みを調べるときは漢和辞典、というように何気なく使い分けている辞典。普段使っていることばの意味、漢字・仮名遣いなど日本語について知りたいことがあるときに使うのが国語辞典ですね。

今日使われているような国語辞典は、大槻文彦(1847-1928)が明治22(1889)年~明治24(1891)年に私家版として刊行した4冊本の『言海』に始まるとされています。

『言海』はその後大槻文彦自身の増補改訂により、『大言海』という書名で著者没後の昭和7(1932)年~昭和12(1937)年に5冊本として富山房から刊行されました。

大槻文彦と『言海』『大言海』の成立については高田宏著『言葉の海へ』(新潮文庫または同時代ライブラリー:4号館文庫新書28/赤)に詳しく著されています。ビジュアル系ならVHSビデオ『ことばのうみへ』(紀伊國屋書店ビデオモニュメント魅名名著:8号館非図書020)も参考になるでしょう。

### 2 「日本国語大辞典」と「日国オンライン」

『言海』の刊行から120年、国語辞典も今やパソコンで利用する時代になりました。

インターネットでもYahoo!やgooで三省堂の『大辞林』、小学館の『大辞泉』などのオンライン版を利用することができるのは皆さんもよくご存知でしょう。

これらのオンライン版国語辞典の中でも最大のものが「日国オンライン」です。

「日国オンライン」は日本最大の国語辞典『日本国語大辞典』第二版(2000~2002年小学館刊)をデータベース化したものです。2007年7月から「ジャパンナレッジ」のオプションとして公開されていましたが、本年から「ジャパンナレッジ」の標準コンテンツとして、『日本大百科全書』『イミダス』『現代用語の基礎知識』『デジタル大辞泉』など複数の辞典・事典と併せて検索ができるようになりました。

### 3 「ジャパンナレッジ」とは

「ジャパンナレッジ」は小学館の『大日本百科全書(ニッポニカ)』をコアとし、上記のほか平凡社の『字通』『東洋文庫』、東洋経済新報社の『会社四季報』、毎日新聞社の『週刊エコノミスト』など多分野の基本的な出版物を電子化して一つのプラットフォームで提供することにより、対象を選ぶことなく統合して事項検索することができる、日本最大の知識データベースです。

また、出版物のオンライン版データベースとして完結するにとどまらず、インターネット上のニュースや信頼がおける学術サイトなどへもリンクして、その先の開かれた巨大なデータベースの海へと漕ぎ出していくこともできるのです。

### 4 “情報”から“知識”へ

図書館は知の宝庫として、印刷物を冊子にした所謂“本”を収集し閲覧に供する所として発生し発展してきましたが、視聴覚資料や電子的資料など新しいメディアの創出と普及に伴い、決まった形のない“情報”の受発信基地としての役割を担うようになりました。

そしてデータベースをインターネットで広く共有できる環境が整った今日、ランダムな“情報”を体系化し蓄積した“知識(Knowledge)”の本拠地としての、新しいようであるが実は普遍的な図書館の機能がローズアップされてきています。

「ジャパンナレッジ」は図書館ホームページの「契約データベース」からアクセスし、右上にある ボタンをクリックしてログインしてください。学内のパソコンで利用できます。

発行 筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

〒818-0192 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1

TEL 092(925)9910 FAX 092(925)3318

URL <http://www.lib.chikushi-u.ac.jp>

印刷 久野印刷株式会社



## 「蛇蝎のごとく」を読んで

日本語・日本文学科(4年) 今村 涼子

タイトルの「蛇蝎」とは人が忌み嫌うものを指す。この作品は、文字通りそんな人間の毒を含んだような感情を引き出し、一方でまったく異なる情に緩和されゆく奇妙な人間模様を展開させていく。始まりは、主人公である古田修司の娘、塩子が妻子ある男と付き合っているという発覚からである。古田は厳格であり、道の外れたことを嫌う人格者として描かれている。彼の対抗馬として登場するのが、塩子の交際相手である石沢という第二の主人公だ。彼は飄々としており、古田とは正反対の人物である。二人は性格も生き方も全く異なるキャラクターであるにも関わらず、徐々に彼らを隔てている壁が崩壊し始める。それは彼らを取り巻く登場人物たちも同じである。古田の妻かね子、石沢の妻環、双方の子供たち、そして「まがいもの」の親である梅本夫妻……彼らは脇役としてだけでなく、それぞれ主観を持ち「生」の人間として煌びやかに動き回る。

ここで面白いのは、そのすべての人間の接点である塩子が『主人公』ではなく、父親の目線が主体になっていることである。娘と男を別れさせようと四苦八苦している彼の姿は、リアルな現代の父親たちと通じるものがある。しかし娘に更生の道を示そうとする古田自身、若い女性への強い興味を押さえきれず、石沢と同じ道を辿ろうとしてしまう。この欲と理性を行き来する姿が人間臭く、非常に滑稽である。

ここでは「親」と「娘の交際相手」との対立を軸に、親子の間でも、独特な憎悪を築きあげる。大きくは古田が娘塩子の思い踏みにじってしまう点と、夫婦だからこそ持つ相手への偏見がこの事件をきっかけにあらわにしていく点である。私自身は女性目線（妻や娘）に感情を移入させがちだったが、そういった時の男性目線も窺えて実に奇妙な感情を抱いていった。これも向田邦子さんの巧みな表現力によるものだろう。

古田は敵である石沢を邪険しながらも少しずつ心を惹かれていく。それは石沢の人格だけでなく古田には出来ない生き方への憧れによるものではないかと思わせる。終盤にさしかかると、対立していた者が呼応し、味方であるべき者が離れた位置にいるというねじれた関係が確立されていく。しかしその「されていく」過程で、それぞれの立場はまた元通りになっていくのである。それはスタートへと戻ったようであるが、繋がった各々の関係性は消えることなく心に残るのである。最後に古田は、敵であった相手が押し隠していた欲に支配された自分自身であると悟ることで、欲を持つことに対する嫌悪を捨ててくるのである。

蛇蝎のごとく嫌っていたものは、自身に内在する対象であり、捨てきれないがために嫌悪していく。この作品の最大の要所はその心理なのだろう。

前期の選書を  
終わりました。

## 学生図書委員からひとこと。

学生図書委員になって「本」という存在が近くなりました。そして、他の学生図書委員がオススメする本などの情報は、いつも私に良い刺激を与えてくれます。

(中野:英語学科4年)

自分の選んだ本が、図書館に置かれ学生の皆さんに読んでもらえていると思うと、なんとも言えぬ嬉しさを感じました。一番たいへんだったことは、POPを書くことでした。どのようなフレーズを付ければ皆が興味を持ってくれるか、とても悩みました。学生図書委員が選んだ本をきっかけに、皆が本を読んでくれると嬉しいです。

(石松:日本語・日本文学科3年)

現代の売れっ子作家の本ばかりでなく、名前を聞いたことのない作家や海外の作家にも手を出してみたいと嬉しいです。学生図書委員のポップを参考にして、是非いろいろな本に挑戦してみてください。

(高取:日本語・日本文学3年)

学生図書委員になって、選書リストを作成し、実際に本屋まで選書をしに行き、そこでたくさんの本を見ながら自分の選書リストに書いておいた本を探したり、他の気になった本を手にとってみると、とても充実した時間を過ごすことができました。また、他の図書委員メンバーそれぞれの、好きな本の傾向が違って、今までに出会わなかった本と出会うきっかけにもなりました。

(一番ヶ瀬:日本語・日本文学3年)

図書館はおしゃべりする所ではありませんが、静かでDVD他、多数の書物が揃っています。大学生活と図書館は私にとり唯一、無心になり時間が過ぎるのを忘れる程、最高の場所です。言葉は文字となり、作者の思いが込められています。ネット検索も、携帯電話で小説も読める時代ですが、小さな画面よりもっと大きなジャンルの違う作品と出会う楽しさを見つけてください。楽しいですよ。

(三倉:人間福祉学科4年)

8号館図書館カウンターの横、「学生図書委員のコーナー」から本を借りる人が結構いると聞きました。それぞれ、自分の読みたい本を選んでいます。図書館の利用者増加につながっているのならば嬉しいです。本が好きな人は、ぜひ、来年度の学生図書委員に応募してみてください。

(近藤:英語学科4年)

学生図書委員になって自分の好きな作家以外にもたくさん触れる機会ができ、自分の読む幅も広がり、今まであまり読む機会がなかった外国の作家の本を読むようになりました。また、自分の読みたい本、お薦めの本などを自分で選んで買いに行くというのもとても新鮮でした。

(松尾:現代教養学科1年)

学生図書委員になってまず、感じたことは私の選んだ本を手にとってくれる人がいるのだろうかという不安だった。学生図書委員選出コーナーを訪れるたびに、私の選んだ本が帯出されているのを見るのは嬉しかった。本を借りる立場、選ぶ立場にたつことができ、双方の視点から物事をみる貴重な体験が出来てよかったです。

(岩本:日本語日本文学科2年)

学生図書委員になり、好きな本や気になっている本を買って、それをたくさんの人が読んでくれるのが嬉しいです。私は本を買うためにいろんな本を見るようになり、前よりもっと本を読むことが好きになりました。読書や勉強のために、たくさんの人に図書館を活用してもらえればいいと思います。

(大津山:アジア文化学科1年)

今までにも、図書委員として購入希望図書の集計をしたことはありましたが、まとめたリストは担当教員に提出して終わりでした。書店で自分が選んだリストを手にも、目当ての書籍を求めて書架を行きつ戻りつするのは想像以上に骨が折れる作業でしたけど、様々なコーナーを巡るのは宝探しのように楽しかったです。至らぬ点も多々ありましたが、後期も素敵な書籍をお届けできるよう頑張ります。

(坂井:日本語・日本学科1年)